— 序 —

春!!　春!!　春!!

青春の夢圓らかなる人生の春ではある。

愛撫と思慕をこめた懐しの學舍を後にして我等は去り行く。

さらば!!　永遠に再び回り來ぬ　樂しくも亦感激の日多かりしカレッヂライフよ！　ここしなへに我等が胸に宿る青春の日よ！

榮光と希望もて鷹取の峯に嘯きたりし若き日よ

須磨の浦曲に仲秋の月を眺め落花深き須磨寺に憩ひし昔の名殘りよ

さらば!!　今や西と東に我等は別れ行く、

年々歳々花相似たり

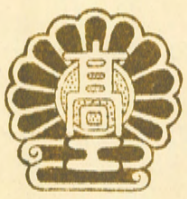
年々歳々人同じからず

昭和四年四月　神樂ヶ原に呱々の聲をあげて生れた土木科。この名を負ひもちて立つた我等が集ひ。

この學舍に、この校庭に、あの楠に、三年の星は流れて今は西と東に分れ行く我等。

轟音軋り定規は辷る　我等が社會にも亦過去の思ひ出多き夢は久遠に樂しいものであろう。五春の後十秋の後二十星霜を經て我等は此處に昔の君を思ひ出すであろう。

（—K　T—）



KOBE TECHNICAL COLLEGE
CIVIL ENGINEERING DEPARTMENT

CONTENTS

恩　　師……1

母校の面影……2

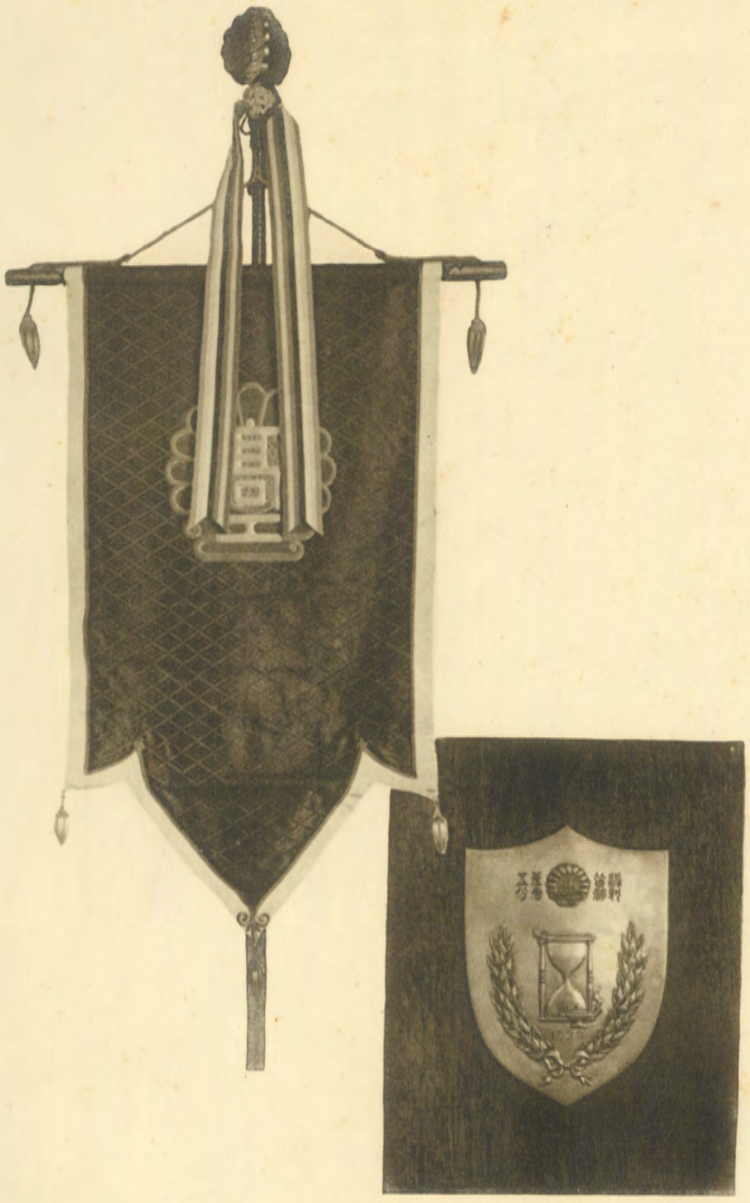
神戸の横顔……3

學校生活……4

校友會……5

學　　友……6

本　館　正　面



校歌

一 延元しのぶ菊水の
　流れも清き湊川
岸邊にかほる楠の
　氣高き影にはぐゝまる
赤き壺の鳳雛は
　立ちて世界に雄飛せん
飛べよ、飛べよ、世界に

二 前に聳ゆる鷹取の
　峰より高き理想もて
須磨の浦曲に寄る波の
　不斷の努力規律あり
やがて奪はん造化の工
　我が高工の意氣見せん
見せよ、見せよ、意氣を